

究成果報告書, 14-21, 1994.

- 3) 小野武年: 脳血管性痴呆発症機構の解明. 日本脳神経財団, 1992年度研究報告, 43-50, 1994.
- 4) 小野武年: 心と脳の解明に挑む. とやまの科学技術—富山から聴こえる21世紀の鼓動—, 64-65, 1994.
- 5) 小野武年: 行動神経科学. 文部省科学研究費助成金総合研究B報告書「脳科学の総合的推進」(代表研究者: 伊藤正男), 33-36, 1994.
- 6) 小野武年: 立花隆が歩く脳研究最前線(取材記事). 科学朝日9月号, 120-126, 1994.
- 7) 小野武年(取材記事): 汝怒るなかれ—脳科学による現代養生学—. アエラ, 6号, 32, 1994.
- 8) 小野武年(特別講演): 記憶のメカニズム. 平成5年度司法研修所専門研究会(第2回脳と認知), 1994, 1, 東京.
- 9) 小野武年(特別講演): 脳と記憶. 富山県精神医学会, 1994, 3, 富山.
- 10) 小野武年(特別講演): 脳と心. 中日サロン4月例会特別講師, 1994, 4, 金沢.
- 11) 小野武年(特別講演): 海馬体と記憶. 第10回つくばブレインサイエンス・セミナー招待講演, 1994, 5, つくば.
- 12) 小野武年(特別講演): 大脳辺縁系と情動. 第13回「脳の情報処理機構についての研究会」特別講演, 1994, 5, 仙台.
- 13) 永福智志: サル海馬体の記憶ニューロンについて. 和漢薬研究所セミナー—記憶・学習行動の生理, 薬理の討論会—, 1994, 5, 富山.
- 14) 小野武年: 大脳辺縁系の情報統合. 文部省重点領域研究「脳の高次情報処理」第2回ワークショップ「高次脳機能の概念」, 1994, 8, 蓼科.
- 15) 小野武年: 側頭葉の構造と情動・記憶機能. 厚生省精神・神経疾患研究委託費第4回精神疾患関連班合同シンポジウム, 1994, 11, 東京.
- 16) 小野武年(特別講演): 大脳辺縁系と情動・記. 日本感覚統合障害研究会第12回大会, 1994, 11, 富山.
- 17) 小野武年: 脳と心…人は何故愛するか. 婦中町保健センター早朝夏期講座, 1994, 7, 富山.
- 18) 小野武年: 脳と心. 平成6年度災害防止決起大会(主催: 佐藤工業株式会社北信越富山佐睦会), 1994, 10, 富山.

生 化 学 (1)

教 授	平 賀 紘 一
助 教 授	古谷田 裕 久
助 手	磯 部 啓 子
助 手	森ケ崎 進

◆ 原 著

- 1) Isobe M., Koyata H., Sakakibara T., Momoi-Isobe K., and Hiraga K.: Assignment of the true and processed genes for human glycine decarboxylase to 9p23-24 and 4q12. Biochem. Biophys. Res. Commun., 203: 1483-1487, 1994.

◆ 総 説

- 1) 古谷田裕久, 平賀紘一: アメリカ合衆国における遺伝子治療の動向. 富山医業大医誌 7: 41-49, 1994.

◆ 学会報告

- 1) 古谷田裕久, David T. Chuang, 平賀紘一: レトロウイルスベクターを使った遺伝子導入による楓糖尿症患者リンパ芽球の分枝鎖ケト酸脱水素酵素活性の正常化. 日本生化学会北陸支部第12回大会, 1994, 5, 金沢.
- 2) 古谷田裕久, 森ケ崎 進, シクダール・ダイパヤン, 李 芳, 平賀紘一: ラット伊東細胞継代系から得られた, 高いI型コラーゲン $\alpha 1$ 鎖mRNAレベルを示す細胞株. 第67回日本生化学会大会, 1994, 9, 大阪.
- 3) 古谷田裕久, 森ケ崎 進, 李 芳, シクダール・ダイパヤン, 平賀紘一: 細胞外基質蛋白軟ゲルとの接触が株化ラット伊東細胞に起こす変化. 第17回日本分子生物学会年会, 1994, 12, 神戸.